

宮崎県延岡市（国内 13 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 8 年 1 月 2 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

## 1 基本情報

用途（飼養羽数）：肉用種鶏（約 6,000 羽）

発生家きん舎の構造：開放鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：平飼い

## 2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は山間地に位置し、樹林及び竹林に囲まれている。
- ② 東側約 150m の河川（農場に最も近い河川）において水きん類等の野鳥は確認されなかったが、南側約 3 km に水きん類 6 羽を確認した。
- ③ 平飼いの開放鶏舎 2 棟が東西に並列して建設されているが、敷地に傾斜があり、発生鶏舎（1 号鶏舎）は西側の高所に位置する。その他、当該農場には更衣室、事務所、採卵室、種卵保管庫、焼却炉があった。
- ④ 調査時、全鶏舎で同日齢の鶏が飼養されていた。

## 3 通報までの経緯

- ① 発生鶏舎（通報時 237 日齢。約 3,000 羽飼養。）の 1 日当たりの通常の死亡羽数は 0 ～ 1 羽程度であり、1 月 1 日午前中の見回りでは異状は確認されなかったとのこと。
- ② 1 月 1 日 13 時の見回りで 4 羽が散在して死亡し、14 時の見回りで 2 羽が鶏舎奥側でまとまって死亡していたことから、家畜保健衛生所に連絡したとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎では死亡鶏が散在していたほか、鶏舎奥の壁際では鶏が固まってうづくまっており、雄鶏では鶏冠にチアノーゼが確認された。

## 4 管理人及び従業員

- ① 飼養管理責任者含め 2 名が勤務しており、他の農場への立入りはないとのこと。
- ② 鶏舎ごとに担当が分かれているとのこと。

## 5 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域の出入口には立入り禁止の看板が設置されていた。
- ② 衛生管理区域に入場する車両は 1 号鶏舎前の動力噴霧器で消毒を行うとのこと。従業員の車両は衛生管理区域外に駐車するとのこと。
- ③ 鶏舎周囲には 1 ～ 2 週間に 1 回程度、消石灰を散布していたとのこと。
- ④ 従業員が衛生管理区域内に入る際は、衛生管理区域境界に位置する更衣室において全身の噴霧消毒及び手指消毒、衛生管理区域用の作業着と靴の着用を実施すること。その後、事務所にてゴム手袋と軍手を着用するとのこと。

- ⑤ 従業員が各鶏舎に入る際には、鶏舎外で衛生管理区域用靴を脱ぎ、鶏舎内サービスルームで鶏舎専用長靴に履き替える（すのこ等の設置なし）とのこと。手袋の交換や手指消毒は行っていないとのこと。
- ⑥ 外来業者（飼料業者や種卵運搬業者）は車両消毒後、従業員と同様の手順で衛生管理区域内に入るとのこと。衛生管理区域内用の衣類や靴は農場が用意したものを使用しているとのこと。なお、通常時の外来者である飼料業者と種卵運搬業者は鶏舎に立入らないとのこと。
- ⑦ 普段の見回りは午前中に4回、昼に1～2回実施しており、巣箱外の卵の回収や死亡鶏の有無の確認を実施しているとのこと。
- ⑧ 種卵は、巣箱内のものはベルトラインで各鶏舎のサービスルームに運ばれた後、従業員により鶏舎外の採卵室に運ばれる。採卵室でケースに並べられ、燻蒸消毒を行った後、保管庫で保管される。種卵の孵化場への出荷は週に2～3回行われており、同系列の他の種鶏場の種卵と同じトラックで運ぶ場合もあるとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の入り口前に飼料タンクが設置されており、雌鶏にはラインを通じた自動給餌を行っていた。飼料のラインには鶏舎外での開放部はなかった。雄鶏には飼料タンクから取り出した飼料をバケツに入れて鶏舎内に運び、手給餌を行っているとのこと。バケツは各鶏舎のサービスルームに保管しており、作業前後の洗浄・消毒は行っていないとのこと。調査時、防疫作業により飼料タンクの餌こぼれが確認されたが、普段は餌こぼれがあった際には動力噴霧器で除去しているとのこと。
- ⑩ 飲水には塩素消毒した山水を利用しているとのこと。
- ⑪ 重機や機材などの他農場との共用は行っていないとのこと。
- ⑫ 農場全体のオールイン・オールアウトがなされており、オールアウト後に除糞や洗浄・消毒を実施し、1か月半～2か月半程度の空舎期間を設けているとのこと。
- ⑬ 入排気は妻側上部の小窓及び鶏舎平側のロールカーテン上部を10cm程度開けた隙間から行っていた。排気ファンも設置されていたが、発生鶏舎では故障のため使用していなかった。

## 6 糞及び死亡家きんの取扱い

- ① 除糞はオールアウト時に飼養管理責任者が実施し、共同堆肥場の職員が共同堆肥場まで運搬するとのこと。直近のオールアウトは5か月以上前とのこと。敷料はオールイン時にのみ、ダンプから直接鶏舎に搬入し、飼養期間中に追加はしないとのこと。
- ② 死亡鶏は見回り時に回収後、袋に入れて農場内の焼却炉に運び、当日中に焼却すること。

## 7 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎平側の外側にはロールカーテンが、その内側には幅約2.5cmの亀甲金網が貼られていたが、金網には小動物が侵入可能な破損が複数認められた。
- ② 鶏舎の出入口の扉を閉鎖した時に、出入口に隙間はないとのことだが、サービスルームから鶏の飼養区画への出入口に設置されている亀甲金網には大きな破損が複数認められた。

- ③ 農場周辺でシカを見ることはあるが、農場内で野生動物を見ることはないとのこと。食害も経験がないとのこと。
- ④ 農場周辺で野鳥を見かけることはあまりないとのこと、調査時にも野鳥は認められなかった。
- ⑤ 鶏舎内でネズミを見ることはあまりないが、ネズミ対策として殺鼠剤とトラップを設置しているとのこと。調査時にラットサインは認められなかった。

(以上)